

【EMD.GR.JP 掲載のニュース】 (2004年4月9日～ 2004年6月10日分)

5月末でDSL加入者数は1,180万強

総務省から2004年5月末時点のDSL加入者数の速報が発表された。それによると加入者数は11,819,177で、これは前月末の2.6%増。増加率は前月から0.2%のマイナス。

内訳を見るとNTT東西のフレッツADSLでの加入者が4,346,076となった。他事業者経由のDSL加入者が残りの7,473,101。NTT東西のフレッツADSLのシェアは36.8%と前月と変わらず。

(6/10)

CSR、第4世代Bluetoothチップ BlueCore4を発表

英CSRは、Bluetooth 1.2の拡張規格である「Bluetooth EDR(Enhanced Data Rate)」に対応した新型チップセット「BlueCore4」を発表した。

Bluetooth 1.2の拡張規格「Bluetooth EDR」は、「Wireless Connectivity World」で明らかにされた新規格。まだプロトタイプだが、従来の最大712kbpsという転送速度に比べて、最大2.1Mbpsと約3倍にまで高速化される。

「BlueCore4」を搭載する機器は、Bluetooth対応になるだけでなく、EDRにもあわせて対応する。「BlueCore4」は標準通信方式であるGFSK(Gaussian Frequency Shift Keying)方式の代わりに、PSK(Phase Shift Keying)方式が採用されている。

同チップセットは、外部フラッシュメモリ用の「BlueCore4-External」と、マスクROM用の「BlueCore4-ROM」の2種類が提供される。

「BlueCore4-External」のサンプル出荷は既に開始され、2004年9月に量産出荷予定。一方の「BlueCore4-ROM」のサンプル出荷は2004年第3四半期に開始され、量産出荷は2004年第4四半期になる見込み。

なお、Bluetoothの規格を策定しているBluetooth SIGでは、「EDR」の規格が2004年秋にも確定し、対応製品が2005年にも利用できるようなるとの見通しを明らかにしている。

(6/9)

アップル、音声出力搭載のiTunes 用無線レシーバを発表

アップルコンピュータは、iTunesの音声をワイヤレスで受信し、内蔵の音声出力端子から再生するIEEE 802.11g対応無線LANアクセスポイント「AirMac Express」(M9470J/A)を発表した。

「AirMac Express」は、WANポート、USB、ステレオミニ丸型アナログ/光デジタル兼用音声出力を備えたアクセスポイント。

ただし、AirTunes機能を使用するには、パソコン側に最新の「iTunes 4.6」が必要。AirMac ExpressはiTunesから自動で検知され、ポップアップリストから複数のAirMac Expressを選択することが可能。ワイヤレス配信中は暗号化される。

AirMac Expressの伝送可能距離は最大45m。AirMac Expressをブリッジ接続することで、さらに広い範囲への送信にも対応する。外形寸法は75×28.5×94mm(幅×奥行き×高さ)、本体重量は189g。本体にユニバーサルACアダプタを内蔵する。

最大54Mbpsのワイヤレスアクセスポイントとしても使用可能で、USBポートにはプリンタを接続できる。

2004年6月10日より直販サイトで販売を開始。直販価格は15,540円。なお、Monster Cable製のステレオミニ-RCAケーブル、丸型-角型光デジタルケーブル、電源延長コードなどをセットにした「接続キット」(4,620円)も発売する。

(6/8)

Microsoft、Windows Media Player 10のテクニカルベータを 公開

米Microsoftは、Windows Media Player 10の開発者向けベータ版「Windows Media Player 10 Technical Beta」のダウンロード提供を開始した。

プログラムサイズは11MB。対応OSはWindows XPのみ。Webサイトから無料でダウンロードできる。

WMP10ではインターフェイスの改善が図られており、上部にLibrary/Rip/Burn/Sync/Guideなどの機能ごとのナビゲーションボタンが追加され、各機能に1ボタンでアクセス可能となっており、NapsterやCinemaNowなどの音楽/映像配信サービスへもプレーヤー上から直接アクセスする機能も追加されている。

また、「Windows Media DRM for Portable Devices」と「Windows Media DRM for Network Devices」を組み合わせたDRMソフト「Janus」を統合しており、ポータブルプレーヤーとの連携機能を拡充している。

MTP(Multimedia Transport Protocol)をサポートすることで、ポータブルオーディオプレーヤーとの自動同期機能が追加された。

対応プレーヤーはCreativeのNOMAD MuVo TX/MuVo Silm/MuVo2や、RioのKarma/Nitrusなど。iRiverのiFPシリーズやRCAのLyra RD1021/RD1071などもファームウェアのアップデートで対応するという。

さらに、Windows Media Center Edition(MCE)搭載PCのメディアライブラリとの統合が図られ、MCE搭載PCで録画したファイルの再生や管理も可能となった。従来同様にWMVのHD映像や24bit/96kHzのWMA9 Proの再生に対応するほか、アスペクト比の設定機能や、色空間や黒レベル設定も追加されている。

なお、正式版は2004年内リリースが予定されており、携帯メディアプレーヤー「Portable Media Center(PMC)」をフルサポートする。

(6/3)

UDAC コンソーシアム、著作権保護技術の規格書を公開

UDAC コンソーシアムは、デジタル著作権保護技術「UDAC-MB (Universal Distribution with Access Control Media Base) V2 技術規格書」を公開した。

UDAC-MB V2 は、公開鍵基盤 (PKI) を採用したデジタル著作権保護技術 (DRM)、音楽、動画、ゲーム、ドキュメント、プログラムなどのコンテンツを、権利者が指定した条件にしたがって配信、蓄積、利用することを目的としている。

公開された規格書は、プロトコルの仕様や実装にあたってのセキュリティ評価基準を示した「概要と DRM 実装の手引き」、DRM モジュール間でのライセンス転送プロトコルとデータ形式を記した「DRM エンティティ間仮想プロトコル」など 4 つの文書で構成されている。

また、超流通に対応したコンテンツ形式、SCDF (Super Content Distribution Format) Version2 も公開した。

SCDF は、コンテンツ生成モジュールと再生システム内の DRM とで相互運用を実現することを目的とした、コンテンツの種類・形式、容量、利用アプリケーションなどに依存しないコンテンツ形式。権利情報との組み合わせにより、超流通の単位として運用することも可能としている。

(6/1)

総務省、4 月末のインターネット利用者数を発表

総務省は、2004 年 4 月末の時点でのインターネット接続サービスの利用者数速報を発表した。

いわゆるブロードバンドの利用者数としては、CATV インターネットが 262.3 万人、DSL が 11,514,995 人、FTTH が 1,240,935 人となっている。

一方、ダイヤルアップ型の加入者数は約 1,883.6 万人。

(5/31)

リッスンジャパン、WMA 形式の音楽配信サービスを発表

リッスンジャパンは、同社のオンライン音楽検索サイト「Listen Japan」と連動した音楽配信サービス「Listen Music Store」を 2004 年 6 月 9 日より開始すると発表した。

オーディオ形式は Windows Media Audio (WMA)。著作権保護に Windows Media Digital Rights Management 9 (WDRM9) を採用。ポータブルオーディオプレーヤーへの転送も可能で、転送回数は 3 回までとなっている。

料金は 1 曲 270 円で、バンドル購入 (アルバム単位) では 1,575 ~ 2,400 円。サービス開始時の参加レベルは東芝 EMI。サービス開始時には約 1 万曲を用意し、2004 年度中に 40 万曲の楽曲を用意する予定。

決済方法はクレジットカードのみで、今後 WebMoney への対応なども検討していくという。

対応ポータブルプレーヤーは WDRM9 対応製品で、リッスンジャパンではクリエイティブメディアの「NOMAD Jukebox Zen Xtra」, 「NOMAD Muvo2」, Rio Japan の「Rio Nitrus/Eigen」, 「Rio Karma」を推奨機種に挙げている。

サービスのインフラ整備や著作権保護管理は J ストリームが担当する。サービスのシステムには、音楽データベースや DRM 管理、データホスティング、決済機能などが含まれており、他のポータルサイトや、ISP などでも導入可能としている。

(5/31)

ソニー、Hi-MD 対応機種の発売延期とカラーバリエーションの追加

ソニーは、当初は 2004 年 6 月中の予定だった大容量 MD 規格「Hi-MD」対応機器全機種の発売日を 2004 年 7 月 10 日以降に延期すると発表した。

Hi-MD ウォークマン「MZ-NH1 (録再型) 同「MZ-NH3D」(USB 記録・再生型) 同「MZ-EH1 (再生専用)」と 1G バイト Hi-MD

ディスク「HMD1G」をそれぞれ 2004 年 7 月 10 日に発売延期する。

またデスクトップ型の「サウンドゲート LAM-X1」は 2004 年 7 月 21 日に延期する。

MZ-NH1 には、カラーバリエーションとして当初発表の「シルバー」に加え「ゴールド」を、MZ-NH3D には当初の「シルバー」に加えて「ブルー」を追加する。

(5/26)

ジャストシステム、オーディオ管理ソフト「BeatJam」を「Mora」に対応

ジャストシステムは、レーベルゲートが運営する音楽配信サービス「Mora (モアラ)」の楽曲の試聴、購入、再生を、デジタルオーディオソフト「BeatJam」から直接できるようになる、「BeatJam 音楽配信強化キット」の無償ダウンロード提供を、2004 年 5 月 25 日より開始すると発表した。

BeatJam 音楽配信強化キットの無償ダウンロード提供の対象は、パソコンや Net MD に付属する、「BeatJam (OpenMG 版)」の登録ユーザー。プログラムサイズは 11.1MB。

BeatJam 音楽配信強化キットをインストールすることで、「BeatJam ミュージックストアブラウザ」が新たに搭載され、BeatJam ミュージックストアブラウザの画面からすぐに Mora に接続できる。

BeatJam ユーザーが Mora を利用する際には、音楽ダウンロード専用プレーヤー「MAGIQLIP2」を併用することなく、BeatJam のみで楽曲の試聴やダウンロード購入、再生が可能になる。

Mora で配信されているさまざまなレベルの豊富な楽曲を BeatJam から検索、試聴、購入でき、パソコンでの楽曲再生やプレイリスト作成、Net MD など対応音楽プレーヤーへの転送といった、音楽配信サービス利用の一連の作業を、BeatJam からシームレスに行うことができるようになる。

また、BeatJam 音楽配信強化キットをダウンロードした BeatJam 登録ユーザーを対象

に、抽選で、Mora で楽曲を 1 曲購入できるネットミュージッククーポンを、期間中合計 4,000 名にプレゼントする、「BeatJam で音楽配信体験キャンペーン!!!」が 6 月中旬から 8 週間連続で実施される。

(5/25)

Napster、英国で音楽配信サービスを開始

米 Roxio 子会社の Napster は、2004 年 5 月 20 日より英国にて楽曲のダウンロード販売サービス「Napster 2.0」を開始したと発表した。

www.napster.co.uk のサイトを通じて会費制のサブスクリプションサービスを提供するほか、1 曲ごとのダウンロード販売も行う。

ダウンロード販売の価格は 1 曲当たり 1.09 ポンド、アルバムは 9.95 ポンド。サブスクリプションサービスは月額 9.95 ポンドで、加入者がダウンロードする場合は 1 曲 99 ペンス、複数曲購入の場合は 88 ペンスの割引料金になる。

サービスを利用するには無料のジュークボックスソフト「Napster 2.0」をダウンロードしてユーザー登録する必要がある。

楽曲は BMG、EMI、Sony Music、Universal Music、Warner Music の 5 大レーベルと、インディーズ系の AIM から提供。当初約 50 万曲でスタートし、1 カ月以内に 70 万曲に拡大予定だとしている。

サービスは Windows 版のみ。ダウンロードした楽曲は CD に記録したり、Samsung、Rio、Creative、Dell 製の携帯音楽プレーヤーで再生できる。

(5/21)

Any Music、オーディオ機器向け音楽配信サービスを開始

エニーミュージックは、対応オーディオ機器をインターネットにつなげることで、24 時間いつでも聴きたい曲を楽しめるサービスを 2004 年 5 月 20 日より開始した。

音楽配信サービスはレーベルゲートの運営する Mora から提供され、曲のコーデックは ATRAC3、ビットレートは 132kbps。

著作権管理方式として OpenMG が使用されており、NetMD やメモリスティックスロットを備えた携帯電話・PDA などでも購入した音楽を楽しむことができる。

利用に際しては、利用登録手数料 315 円と月額利用料 315 円（初月は無料）が必要で、ダウンロード購入できる曲は 1 曲 158 円から。アルバム単位では 1,050 円から。

サービスを利用するにはソニーやパイオニアが発表した対応機器が必要。FM ラジオに関しては TOKYO FM、CD 販売については HMV ジャパンが協力している。

配信サービスで提供される収録曲は現在約 38,000 曲だが、夏までに 10 万曲、今年度末には 15 万曲までに増強される予定。

(5/20)

NTT Com、音楽配信サービス「OCN MUSIC STORE」を発表

インターネットサービスプロバイダ「OCN」を運営する NTT コミュニケーションズ (NTT Com) は、音楽ダウンロードサービス「OCN MUSIC STORE」を 2004 年 6 月 7 日より開始すると発表した。

音声圧縮形式は WMA (Windows Media Audio) を採用。著作権保護の仕組みとして WMT (Windows Media Technologies) による DRM (Digital Rights Management: デジタル著作権管理) に対応している。

楽曲料金は 1 曲 210 円～367 円、アルバム単位では 1,449～2,404 円。サービス開始時には約 2 万曲を用意し、2004 年度中に 30 万曲の楽曲を用意する予定としている。

OCN MUSIC STORE サービス開始時の参加レーベルは、日本クラウン、コロムビアミュージックエンタテインメント、セーニャ・アンド・カンパニー、東芝 EMI、徳間ジャパンコミュニケーションズ、VAP、ビクターエンタテインメント、フォーライフ ミュージックエンタテインメント、ポニーキャニオンで、

夏頃にはワーナーミュージック・ジャパンが参加する予定。

購入は NTT Com が運営する OCN の課金サービス「OCN ベイオン」を利用する。OCN ベイオンは接続会員向けサービスのため、他プロバイダーの会員は利用できない。

ダウンロードした楽曲のポータブルオーディオプレーヤーへの転送は 3 回まで可能。CD-R への転送、PC から PC への転送はできない。

対応するポータブルオーディオプレーヤーは Rio Japan の「Rio NITRUS/EIGEN」、「Rio KARMA」、「Rio CHIBA/S シリーズ」。順次ほかのポータブルプレーヤーへの対応も図っていくとしている。

NTT Com ではブログサービス「ブログ人」との連動サービスも予定。OCN MUSIC STORE の楽曲紹介ページへブログユーザーがトラックバックできる機能を夏頃に提供される。また、CD などの物販サービスも OCN MUSIC STORE で提供される。

(5/20)

エキサイト、音楽配信サービス「Excite Music Store」を開始

エキサイトは、2004 年 5 月 20 日より、音楽のダウンロードサービス『Excite Music Store (エキサイトミュージックストア)』を開始すると発表した。

音声圧縮形式は WMA (Windows Media Audio) を採用。著作権保護の仕組みとして WMT (Windows Media Technologies) による DRM (Digital Rights Management: デジタル著作権管理) に対応している。

楽曲の料金は 1 曲 150 円から 270 円。5 月 20 日からは邦楽約 1,000 曲、その他 100 曲を配信、6 月中に約 40,000 曲、12 月までに約 10 万曲を揃える予定としている。

サービス開始時の配信対応レーベルは東芝 EMI、コロムビアミュージックエンタテインメント、オレンジブルー。楽曲提供予定のレーベルはワーナーミュージック・ジャパン、BMG ファンハウス、K7 その他レーベル。

購入はエキサイト ID のほか、BIGLOBE、DION、ODN のプロバイダー決済にも対応予定。

ダウンロードした楽曲のポータブルオーディオプレーヤーへの転送は 3 回まで可能。CD-R への転送、PC から PC への転送はできない。

クリエイティブメディアの NOMAD シリーズがエキサイトミュージックストア対応製品として推奨されており、NOMAD シリーズにバンドルされるソフトウェア「Creative MediaSource」向けに Excite Music Store 用プラグインが提供される。

NOMAD シリーズの対応機種は現在のところ「NOMAD Zen Xtra」「NOMAD MuVo2」「NOMAD MuVo TX」「MuVo Slim」の 4 シリーズ。

(5/20)

アップル、「iTunes 4.5 for Windows」の日本語版を公開

アップルコンピュータは、2004 年 5 月 19 日よりオーディオジュークボックスソフトの最新バージョン「iTunes 4.5 for Windows」の日本語版を公開した。

iTunes 4.5 は英語版が 2004 年 4 月 28 日に公開されており、MacOS X 用は日本語版も 2004 年 4 月 29 日に公開されていた。

iTunes 4.5 では、可逆圧縮である独自コーデック「Apple Lossless」をサポート。Windows 版では WMA ファイルの読み込みに対応した。プロテクトのかかっていない WMA ファイルや AAC ファイルへの変換も可能となっている。

また、自動選曲や曲目の追加、削除などができるプレイリスト機能「パーティシャッフル」や、CD ジャケットの作成機能を搭載している。

(5/19)

日立 GST、タイ拠点の HDD 生産能力を増強

日立は、同社がタイに設置している HDD 生産拠点の生産能力を、年間約 3,000 万台から約 6,000 万台に増強する計画について、タイ国投資委員会の承認を得たと発表した。

同社の Hitachi Global Storage Technologies (HGST) 部門は、この生産量を達成するために、数年にわたり 2 億ドルを投資する。

生産能力が増強される HDD は、マイクロドライブと 2.5 インチ HDD の「Travelstar」シリーズ、3.5 インチの「Deskstar」シリーズの 3 品目。

中でもマイクロドライブの生産能力は四半期当たり数百万台に引き上げる計画。マイクロドライブの需要は、特に HDD 内蔵タイプのデジタル・オーディオ・プレーヤーの需要は引き続き伸長すると予想されるとしている。

(5/17)

4 月末で DSL 加入者数は 1,150 万強

総務省から 2004 年 4 月末時点の DSL 加入者数の速報が発表された。それによると加入者数は 11,514,995 で、これは前月末の 2.8% 増。増加率は前月から 0.1% のプラス。

内訳を見ると NTT 東西のフレッツ ADSL での加入者が 4,235,969 となった。他事業者経由の DSL 加入者が残りの 7,279,026。NTT 東西のフレッツ ADSL のシェアは 36.8% と前月から 0.3% のプラス。

(5/14)

NTT ドコモ、東京メトロ駅構内で無線 LAN サービス展開へ

東京地下鉄（東京メトロ）と NTT ドコモは、東京メトロ全駅に無線 LAN 設備を整備し、同設備を利用した共同事業を 2004 年 8 月頃から開始することについて、基本合意書を締結したと発表した。

この無線 LAN 設備は、東京メトロの光フ

ァイバーネットワークを活用する形で整備される。

NTT ドコモでは、2004 年 8 月頃から東京メトロの一部駅において、公衆無線 LAN サービス「Mzone」のサービスを開始し、秋頃までに全ての駅で利用可能とするとしている。

なお、この光ファイバーネットワークおよび無線 LAN 設備は、ほかの公衆無線 LAN 事業者にも提供される可能性がある。

また、ドコモでは、Mzone と FOMA を組み合わせたサービスも検討しているとしている。

(5/13)

SCEI、携帯ゲーム機/AV プレーヤー「PSP」を正式発表

ソニー・コンピュータエンターテインメント(SCEI)は、携帯ゲーム機「プレイステーション・ポータブル(PSP)」を 2004 年末に日本市場に投入すると発表した。

“PSP”は、本体色にブラックを採用し、16:9 ワイドスクリーン液晶を中央に配置した横長のラインを活かした手になじむデザイン。

外形寸法は約 170mm x 74mm x 23mm、重さ約 260g。アスペクト比 16:9 の 480 x 272 ドット/4.3 型 TFT 液晶ディスプレイを装備し、最大輝度は 200cd/m²。

CPU は専用の PSP CPU で、コアクロックは 333MHz。メインメモリは 32MB、内蔵 eDRAM は 4MB。

ソフトの供給メディアとして新開発の 60mm 径光ディスク「UMD(ユニバーサル・メディア・ディスク)」を採用。記録容量は 1.8GB で、ディスク固有 ID や 128bit AES 暗号の採用などにより、著作権保護対策を施している。

PSP の UMD ドライブは再生専用。UMD では、PSP Game/UMD Audio/UMD Video の 3 つのプロファイルが用意され、UMD Audio は音声形式として ATRAC3plus と

PCMをサポート、UMD Videoは映像形式として MPEG-4 AVC(H.264)、音声形式はATRAC3plus、字幕 PNGをサポートしている。

さらに、リージョンコードやパレンタルロックなどのアクセス制御技術も備えている。

本体には他にも IEEE 802.11bの無線 LAN や USB 2.0、メモリスティック PRO Duo、IrDA、IR Remote などのインターフェイスを装備。また、ステレオスピーカーも内蔵している。

無線 LAN や USB 経由で、パソコンなどからメモリスティック PRO Duo へのコンテンツ/データ転送が可能となっている。電源は内蔵リチウムイオンバッテリー。

なお、欧米市場では 2005 年春より順次発売を開始するとしている。

(5/12)

有線ブロード、光ファイバサービス契約者数、取付数で 15 万件突破

有線ブロードネットワークスは、ブロードバンド事業 (FTTHブロードバンドインターネットサービス)について、2004 年 4 月末時点の進捗状況を発表した。

これによると、工事日が確定している契約者数が 241,077 件、回線が開通している取り付け数が 150,840 件となった。

前月 2004 年 3 月末時点のもの比べると、契約者数で約 10,000 件、取り付け数で約 7,800 件となる増加となっている。

なお前回より公表されている個人向け集合住宅、法人向けオフィス・商業ビル別の数値では、集合住宅が 132,359 件、法人用途のオフィス・商業ビルが 9,911 件。

同様に、集合住宅における 1 棟あたりの平均加入戸数は 4.40 (集合住宅 5.47、法人用途のオフィス・商業ビル 1.22) 集合住宅取付棟数は 32,300 (集合住宅 24,186、法人用途のオフィス・商業ビル 8,114) となっている。

(5/12)

シャープ、1 ビットデジタルアンブ搭載のエニーミュージック端末を発表

シャープは、エニーミュージック対応の HDD オーディオシステム「SD-AN1-S」を発表した。

SD-AN1 は、40GB HDD、CD プレーヤー、AM/FM チューナ、メモリスティックスロット、防磁型スピーカーなどで構成したミニコンボスタイルの HDD オーディオシステム。

2004 年 5 月 20 日開始の音楽配信サービス「エニーミュージック」に対応し、単体で音楽データのダウンロード、記録、再生が行なえる。ディスプレイは付属していない。

CD プレーヤーから HDD への取り込みや、Net MD および MG メモリスティックへのチェックアウトも可能。記録形式は ATRAC3 とリニア PCM。CD-R/RW やメモリスティックに記録した MP3 データも再生できる。CDDDB にも対応。

また、CD-R/RW、メモリスティックなどの画像データを HDD に保存することも可能。Web ブラウザやメール機能も搭載する。

アンブには 2.8MHz の 1 ビットデジタルアンブを採用。出力は 25W × 2ch。5 バンドグラフィックイコライザや重低音再生の「X-BASS」も利用できる。

本体に Ethernet と USB 端子を装備。S 映像出力、コンボジット出力、光デジタル音声出力、アナログ音声入力、アナログ音声出力、光デジタル/アナログ兼用入力(MD 入力)、ヘッドフォン端子も備えている。本体の外形寸法は 237 × 327 × 118mm(幅 × 奥行き × 高さ)、重量は約 6kg。

付属のスピーカーは、120mm コーン型ウーファと 25mm ソフトドーム型ツイーターの 2 ウェイ 2 スピーカー。「1 ビットデジタルアンブの高音質を活かす」という木製キャビネットを採用した。スピーカーの外形寸法は 160 × 217 × 270mm(幅 × 奥行き × 高さ)、重量は約 3.7kg(1 本)。

なお、SD-AN1 を購入し、8 月 31 日までに

ISP サービス「BB スペースタウン」に申し込むと、先着 200 名に BB スペースタウン専用の自律型ルータ「SEIL(ザイル)」が最大 6 か月間モニター提供される。

発売日は 2004 年 5 月 20 日を予定し、価格はオープン。

(5/11)

ケンウッド、アルミ外装のエニーミュージック端末を発表

ケンウッドは、音楽配信サービス「エニーミュージック」に対応した HDD オーディオシステム「NZ-07」を 2004 年 5 月下旬に発売すると発表した。

NZ-07 は、2004 年 5 月 20 日開始の音楽配信サービス「エニーミュージック」を利用できる HDD オーディオシステム。テレビチューナー内蔵の 5.6 型 TFT ディスプレイが標準で付属する。

40GB HDD、CD プレーヤー、AM/FM チューナ、パスレフ型 2 ウェイスピーカーなどからなるシステム。エニーミュージックサービスから音楽ダウンロード、CD プレーヤーからの音楽取り込みなどが行なえる。ネットワークへは Ethernet で接続し、Web ブラウザやメール機能も搭載する。

HDD へは ATRAC3 形式、または PCM で記録し、ATRAC3 のビットレートは 132/105/66kbps。132kbps で 585 時間の記録が可能。Gracenote の CDDDB にも対応している。また、USB 経由で Net MD にも接続できる。

35W × 2ch(6)のデジタルアンブを搭載。CD のデジタル信号をアンブ段にそのまま入力できる「フルデジタルインプット・デジタルアンブ」を採用し、増幅段のデジタル化を含め「音質劣化の極めて少ない高音質再生が可能」としている。グラフィックイコライザーも装備し、6 種類のプリセットやユーザー EQ を利用できる。

音声入力として、光デジタル入力を 1 系統、アナログ入力を 1 系統、MD 用の光デジタル/アナログ兼用を 1 系統装備。音声出力は、アナログ 1 系統を搭載。S 映像出力、コンボジ

ット出力も備える。

本体部のフロントパネルにアルミ材を使用。脚部には振動の影響を低減するため、ビンスパイクを採用した。本体部の外形寸法は227×326.7×123.9mm(幅×奥行き×高さ)、重量は約5.85kg。

スピーカーはバスレフ型の2ウェイ2スピーカー。ユニットは130mmコーン型ウーファと25mmドーム型ツイーターを採用し、防磁型となっている。スピーカーの外形寸法は165×277×280mm(幅×奥行き×高さ)、重量は約5.1kg。

標準装備の液晶ディスプレイは5.6型で、テレビチューナー(VHF/UHF)やモノラルスピーカー、ヘッドフォン端子を内蔵。外形寸法および重量は180×55×136mm(幅×奥行き×高さ)、620g。価格はオープン。

(5/11)

ソニー、HDD オーディオプレーヤー「VAIO pocket」を発表

ソニーは、20GBのHDDを搭載し、最大13,000曲の音楽ファイルを保存できるポータブルオーディオプレーヤー「VAIO pocket VGF-AP1」を2004年6月5日より発売すると発表した。

VAIO pocketは、2.2型/320×256ドットのカラー液晶ディスプレイを搭載した製品で、ATRAC3/ATRAC3plus形式の音楽ファイルやJPEG形式の画像ファイルを再生できる。

タッチパッド型のユーザーインターフェイス「G-sense」を搭載し、指の動きと液晶画面のカーソルが連動した再生・巻き戻し・検索といった操作が可能となっている。

検索機能としては、アーティスト/曲名/ジャンル別検索やアルファベット順検索などに加えて、再生履歴から作成されたプレイリストやジャケット別検索にも対応する。

パソコンとの連携は、付属ソフト「SonicStage Ver.2.0」を利用し、付属のUSBクレードル経由でオーディオ転送が行なえる。クレードルには充電機能やライン出力も備えている。

SonicStage Ver.2.0の対応OSはWindows 98 SE/Me/2000/XP。VAIO pocketで再生可能なオーディオ形式はATRAC3/ATRAC3plusで、MP3やWAVE、WMAなども転送時にATRAC3/ATRAC3plusに変換して転送する。

SonicStage Ver.2.0では音楽配信サイト「Mora」にワンクリックで直接アクセスでき、ダウンロードによる曲購入を容易にしている。また、CDDDBにも対応する。また簡易転送ソフト「music move」もバンドルされる。

リモコンは、かな/漢字に対応した3行表示の液晶リモコンで、再生/停止、早戻しなどの基本操作を行なえる。

本体サイズは約115.2×17.2×63.3mm(幅×奥行き×高さ)で、重量は約195g。電源はリチウムイオン充電電池で、バッテリー駆動時間は最大20時間。価格はオープン。

(5/10)

Vodafone、都内でFlash-OFDMのフィールドテスト

米Flarion Technologiesと英Vodafoneは、2004年半ばにも東京都内でFlarion Technologiesのモバイル通信技術Flash-OFDMのフィールド実験を実施すると発表した。

Flash-OFDMは、1.25Mz幅の周波数を上りと下り合わせて2本使うデータ通信方式。伝送速度は下り最大3Mbps(平均1~1.5Mbps)上り最大900kbps(平均300~500Kbps)となり、Flarion Technologiesではモバイル環境で「ほぼADSLに匹敵する」としている。

今回の実験では、東京都内の特定地域に7~8カ所の基地局を設置。システムパフォーマンスなどの技術検証が行なわれる。

1.25GHzの周波数帯を利用し、Vodafoneが実験用免許を取得。通信にはFlarion TechnologiesのFlash-OFDM PCカードを装着したノートパソコンやPDAが用いられ、インターネットアクセスや、企業の生産管理用アプリケーション、オンラインゲームなど

のフィールドテストが実施される。

(5/7)

米Microsoft、DRMソフト新バージョンを発表

米Microsoftは、デジタル著作権管理ソフト「Windows Media Digital Rights Management(DRM)」の新バージョンを発表した。

新バージョンでは、サブスクリプション(月額)制サービスやオンデマンドサービスのコンテンツに対応し、PCのほか携帯機器やホームネットワーク機器にもコンテンツを転送できる。

Dell、Rio、Samsung Electronicsなどのメーカーが対応携帯プレーヤーを発売する予定。

また、AOL、Disney、OD2などのコンテンツ企業、CinemaNow、Movielink、Napsterなどのサービスプロバイダーも対応予定としている。

(5/6)

ソニー米国法人が有料音楽配信サービス「Connect」をオープン

ソニーの米国法人Sony Connectは、米国向けの有料音楽配信サービス「Connect」を2004年5月4日よりオープンしたと発表した。

メジャーレーベルとインディーズ系の50万曲以上をそろえ、価格は1曲当たり99セント、アルバムは9.99ドルから。

オーディオフォーマットはATRAC3を採用。ダウンロードした楽曲は、ダウンロードに使ったPCを含め、同ストアに登録されたPC3台までで再生できる。

携帯音楽プレーヤーへの転送は無制限。CDへの記録はATRACフォーマットとRedbookフォーマットでそれぞれ5枚まで認められる。

この立ち上げに合わせて同社はリムーバブル

ルメディアを搭載したデジタル音楽プレーヤーの「Hi-MD Walkman」を発表した。

ソニーは米国だけでこれまでに250万台以上のConnect対応のウォークマンを販売しており、年末までには700万台を突破する見通しだとしている。

(5/6)

総務省、3月末のインターネット利用者数を発表

総務省は、2004年3月末の時点でのインターネット接続サービスの利用者数速報を発表した。

いわゆるブロードバンドの利用者数としては、CATVインターネットが257.8万人、DSLが11,196,830人、FTTHが1,142,335人となっている。

一方、ダイヤルアップ型の加入者数は約1,897.4万人。

(4/30)

三洋電機、超急速充電可能なニッケル水素電池を開発

三洋電機は米Rayovac Corp.と超急速充電可能なNi水素2次電池を共同で開発していくことで合意したと発表した。

今回の共同開発では、Rayovac社が開発した「I-C3システム」(in-cell-charge-control system)を採用し、高容量のNi水素2次電池を商品化していく。

具体的な商品としては、2004年秋頃に、高容量かつ、約15分で満充電可能なI-C3システム対応の市販用単三形ニッケル水素電池と同電池対応の充電器の販売を予定している。

両社協同で開発の後、電池の製造は三洋電機が行い、米国、欧州の市販マーケットへの販売はRayovac社が、日本、アジアの市販マーケット及び、デジタルカメラメーカーなどのOEM市場への販売は三洋電機が行う予定。

なお、短時間で満充電可能な利点を利用し

て、市販用途以外の電動工具市場、バックアップ市場などへもI-C3システムの導入を、今後検討していくとしている。

(4/29)

アップル、「iTunes 4.5 for Mac」の日本語版を公開

アップルコンピュータは、2004年4月29日よりオーディオジュークボックスソフトの最新バージョン「iTunes 4.5」の日本語版を公開した。

公開されたのはMac OS X用の「iTunes for Mac」のみで、Windows 2000/XP用の「iTunes for Windows」の日本語版は5月中旬に公開される予定。iTunes 4.5は英語版が2004年4月28日に公開されており、今回公開されたのはその日本語版。

iTunes 4.5では新たに「Apple Lossless」と呼ばれるロスレス圧縮コーデックをサポートした。また、Windows版ではWMAの読み込みに対応し、AACへの変換も可能となった。

自動選曲や再生予定の曲の追加、削除、並べ替えなどができるプレイリスト機能「パーティシヤッフル」も搭載している。

またMusic Storeの新サービスと連動する機能として、自分の好きな曲のプレイリストをiTunes Music Storeで公開し、他のユーザーがプレビューや格付けなどが行なえる「iMix」が搭載された。さらにCDケースカバーの印刷機能が搭載されている

iTunes Music Storeから購入した曲の再生権が、従来の3台までのコンピュータから2台増え、5台までとなった。

なお、作成したプレイリストのCD-Rへの書き出しは、従来10回まで行なえたが、iTunes 4.5からは7回までとなったという。1曲単位の場合は、従来と同様制限無くCDへの書き出しが可能となっている。

また、同時にiPodの最新ファームウェア「iPod Update 2004-04-28」も公開された。Dockコネクタ非搭載のiPod用と、Dockコネクタ搭載のiPod/iPod mini用の2種類が用

意される。

Dockコネクタ非搭載iPodでは、iTunes 4.5とiTunes Music Storeの新機能に対応するほか、再生パフォーマンスが向上する。Dockコネクタ搭載iPod/iPod miniでは、さらに「Apple Lossless」もサポートされる。

(4/29)

無線LAN倶楽部、東急東横線でサービス開始

NTTブロードバンドプラットフォームが運営する公衆無線LANサービス「無線LAN倶楽部」は、2004年4月26日より東急東横線でサービスを開始すると発表した。

無線LAN倶楽部は、駅を中心としたIEEE 802.11b準拠の公衆無線LANサービス。初期費用1,575円、月額料金1,575円の定額プランのほか、月額315円で1日利用できるプランなども用意されている。

新たにサービスが利用可能になったのは、東急東横線渋谷駅ホームおよび改札コンコース、中目黒駅ホーム、自由が丘駅ホーム、武蔵小杉駅ホーム、菊名駅ホーム、横浜駅ホームおよび改札コンコース。

これによって、無線LAN倶楽部は京王・京急・相鉄・西武・横浜市営地下鉄・東急・JR東海の主要54駅と駅周辺施設290カ所、羽田空港へと提供エリアを拡大した。

(4/26)

DDIポケット、「Sound Market」などを9月末で終了

DDIポケットは、音楽配信サービス「Sound Market」などを、2004年9月30日をもって終了すると発表した。

今回終了するサービスは、「Sound Market」のほかにPメールを複数の相手に一度で送信できる「Pメール一斉送信」、Pメール非対応端末からPメール送信が可能な「Pメール非対応電話機からのPメール送信」、スポーツ情報などを提供する音声コンテンツサービス「ポケット情報ダイヤル」、複数のDDIポケットユーザーと同時に会話できる

「ボイスミーティングサービス」の5種類。
(4/23)

パイオニアも「エニーミュージック」対応オーディオ機器を発表

パイオニアは、5月20日からサービスが開始されるPC不要の音楽ダウンロードサービス「Any Music」に対応したオーディオシステム「X-AM1」を2004年5月20日に発売すると発表した。

製品は本体、液晶ディスプレイ、スピーカー×2、リモコンで構成されており、価格はオープン。

本体にはEthernet端子を備えており、ブロードバンド環境があれば、AnyMusicのサービスを利用して、24時間いつでも好きな音楽をダウンロードして楽しめる。内蔵されている40GバイトのHDDには、AnyMusicからダウンロードした音楽を保存しておくほか、CDからのダビングも可能となっている。

HDDに保存した音楽はメモリスティックスロット、もしくはUSB端子を利用したNetMD対応機器で外部へ転送することができる。メモリスティックに収められた音楽を再生することや、USBで接続したNetMD対応機器からの出力を再生することも可能。

付属する液晶ディスプレイは320×240表示に対応する5インチ(対角12.7センチ)、6種類のプリセットが可能なイコライザーで音質調整が行えるほか、低音のブースト機能「P.BASS」を備える。

出力端子は、10BASE-T/100BASE-TX、USBポート×2、アナログ入力、アナログ出力、アナログ/光デジタル入力、光デジタル入力、S映像出力、映像出力を装備。

本体サイズは、本体が235×330×119mm(幅×奥行×高)、液晶モニターが152×120×148mm(幅×奥行×高)、重量は、本体が約5.6kg、液晶モニターが約450g。

スピーカーは、130mm径ウーファと、26mmツイーターから構成される2ウェイ2スピーカー。外形寸法/重量は165×270×280mm(幅×奥行き×高さ/1台)/約4.0kg

(1台)

ソニー、「エニーミュージック」対応オーディオ機器を発売

ソニーは、ネットワークを利用した「ブロードバンドミュージックナビゲーションサービス」“エニーミュージック”に対応することで、音楽のダウンロードや、音楽CDの購入、音楽関連情報の閲覧が楽しめるネットワークオーディオシステム“NETJUKE(ネットジューク)”[®]NAS-A1[®]と専用5V型液晶モニター[®]AUDP-A1[®]を発売すると発表した。

[®]NAS-A1[®]は、40GBのハードディスク(HDD)を搭載することにより、ダウンロードした音楽やデジタルスチルカメラで撮影した静止画などを蓄積し、家庭で豊富なコンテンツを楽しむことが可能。またWebブラウザを搭載し、電子メールやインターネットを楽しむこともできる。

各種機能の操作は、家庭用のテレビや専用液晶モニター(別売)を接続することで、その画面上に表示されるグラフィカルユーザーインターフェース(GUI)によって行うことができる。

[®]NAS-A1[®]は、画面上のGUIを使用して、“エニーミュージック”のサービスにアクセスし、曲のタイトルやアーティスト名から楽曲を検索・試聴して、気に入った楽曲を手軽にHDDへダウンロードすることができる。最近のヒット曲やラジオ番組のオンエアリスト等、最新の音楽情報も閲覧可能となっている。

HDDに蓄積した音楽は、メモリスティックやUSB接続によってNetMD対応のポータブル機器に転送することができる。さらに家庭内LANを利用して、“バイオ”に録音されている楽曲を遠隔操作し、ストリーミング再生することも可能。

本体にはEthernet端子×1、USB×2のほか、アナログ音声出力、アナログ音声入力、アナログ/光デジタル兼用入力、光デジタル入力、ヘッドフォン端子、S映像出力、コンボジット出力などを装備する。外形寸法は235×330×119mm(幅×奥行き×高さ)重量は

約5.6kg。

スピーカーは、100mm径ウーファと25mmツイーターから構成される2ウェイバスレフ式。外形寸法は130×200×325mm(幅×奥行き×高さ/1台)、重量は約2.5kg(1台)

2004年5月20日発売予定。価格はいずれもオープンプライス。

(4/20)

音楽配信「エニーミュージック」が5月20日にサービス開始

エニーミュージック、2004年5月20日よりブロードバンドネットワークを利用した音楽配信サービス「Any Music(エニーミュージック)」を開始すると発表した。

エニーミュージックは、音楽配信サービスの事業化を検討していたエニーミュージック企画が2004年2月1日に事業会社化し、株式会社として設立された。ケンウッド、パイオニア、シャープ、ソニーの4社が中心となり設立され、ヤマハ、ディーアンドエムホールディングス、オンキヨー、ビクターなどが協賛会社として参加している。

「エニーミュージック」は、インターネットにブロードバンド接続した対応オーディオ機器に、直接音楽を配信したり、関連サービスを提供するためのネットワークサービス/共通プラットフォームと位置づけられている。著作権管理技術には、ソニーが開発したOpenMGを、配信コーデックにはATRAC3を採用する。

エニーミュージックは、ホームオーディオ機器向けのポータル、顧客管理/認証/課金/決済システムの開発や運用のほか、専用の共通端末のハードウェア仕様や、インターフェイス仕様などの仕様書作成、管理、共通デバイス開発などを行なう。また、マーケティングやプロモーション、ライセンス管理、カスタマーサポートも同社が担当する。

「エニーミュージック」の仕様に沿ったハードウェアを各社が販売。仕様に基づいて製品化することで、異なるメーカーの機器でも、各ハードウェアのGUIや操作体系が統一され、メーカーの差を意識することなく、イン

ターネット経由で楽曲の検索や試聴、購入が行なえる。

「エニーミュージック」の音楽配信システムは、レーベルゲートの「Mora」を利用。Mora とシステム連携し、サービス開始当初は国内主要レーベルの約 38,000 曲が配信可能となる。月額利用料は 315 円で、サービスの利用には必ず登録が必要となる。初期登録費用は 315 円。

同社では、ユーザーからの利用料徴収を中心に、楽曲販売手数料や対応機器販売会社からのライセンス料徴収などで、収益を上げていく予定としている。

販売する楽曲の価格はシングルが 158 円から、アルバムは 1,050 円からで、価格はコンテンツ提供社やアーティストなどにより異なる見込み。また、音楽配信以外にも FM 放送事業者などと業務提供し、各地域の FM オンエア中の楽曲情報がエニーミュージック端末で閲覧できる。さらに、HMV ジャパンと提携し、CD のオンライン購入も可能となっている。

5 月 20 日のサービス開始にあわせて、ソニーとパイオニアがエニーミュージック端末を製品化する。今後は、ホームオーディオ機器のみならず、カーオーディオ製品や移動体通信機器などでもエニーミュージック対応端末の製品化を検討していくという。

(4/20)

イー・アクセス、TD-SCDMA (MC) の実験局予備免許を取得

イー・アクセスは、2004 年 4 月 15 日、総務省より次世代無線ブロードバンド技術 TD-SCDMA (MC) の実験局予備免許を取得したと発表した。

これを受け、イー・アクセスは TD-SCDMA (MC) 方式の商用サービスで実績のある米 Navini Networks の技術を採用し、「どこでも ADSL」の実現を目指すべく、都内の実験局において実験を開始するとしている。

TD-SCDMA (MC) 技術は米 Navini Networks 社 CTO、Dr. Guanghan Xu により開発された TDD 方式の一つ。スマートアンテナ、マルチキャリア、上り同期 CDMA といった技術を使うこと

で周波数を効率よく利用し、より広い範囲で、より速いデータ通信が可能となる、IMT-2000 のコンセプトに合致する技術。

(4/16)

クリエイティブ、厚さ 7mm の「MuVo Slim」を発表

クリエイティブメディアは、ボイス録音機能と FM チューナを内蔵した MP3/WMA プレーヤー「Creative MuVo Slim 256MB (型番: CNMVSL256)」「Creative MuVo Slim 128MB (型番: CNMVSL128)」を 2004 年 4 月下旬に発売すると発表した。

Creative MuVo Slim 256MB/128MB は、薄さ僅か 7 ミリのスリムなケースを採用し、FM ラジオチューナーとボイス録音用のマイククロフォンを搭載。内蔵メモリーには音楽だけでなく、画像や文書などのデータも保存でき、USB 2.0 で高速なデータ転送ができる。

MP3 (MPEG Audio Layer-3、ビットレート 32~320kbps) と WMA (Windows Media Audio、ビットレート 64~192kbps) の再生に対応。また DRM (著作権保護) 付きの WMA ファイルの再生にも対応している。

液晶ディスプレイは 132×32 ドット、ブルー EL バックライト付き、日本語 ID3 タグも表示できる。

バッテリーには着脱可能な専用リチウムイオンバッテリーを採用し、最大 17 時間の連続再生時間が可能となっている。

外形寸法および重量は、85.0×55×7mm (幅×奥行き×厚さ)、46g (電池込み)。音楽ファイルの転送・管理ソフト「MediaSource 2」、ヘッドフォン、専用キャリングケースなどが付属する。価格はオープン。

(4/14)

ソニー、メモリスティックをマジックゲート/高速転送対応に統一

ソニーは、著作権保護機能「マジックゲート」と、高速データ転送に対応したメモリスティック「MSH」シリーズを、2004 年 5

月 21 日より発売すると発表した。

モデルは容量 32MB の「MSH-32」、容量 64MB の「MSH-64」、容量 128MB の「MSH-128」、容量 128MB×2 の「MSH-128S2」の 4 種類。

動作電圧は 2.7~3.6V。本体サイズは約 21.5×50×2.8mm (幅×奥行き×高さ)、重量は約 4g。本体色は紺色。

現行のシリアルインターフェースによるメモリスティック対応機器との互換性を確保しながら、「メモリスティック」がもつ 10 本のデータ入出力端子のうち、複数のデータ入出力端子を同時に使用するパラレルインターフェースにも対応。

今後登場する対応機器では最高転送速度 (理論値) を 20MB/sec、現行モデル比最大約 4 倍の高速化を実現した。

(4/14)

3月末でDSL加入者数は1,120万弱

総務省から 2004 年 3 月末時点の DSL 加入者数の速報が発表された。それによると加入者数は 11,196,830 で、これは前月末の 2.7% 増。増加率は前月から 0.1% のマイナス。

内訳を見ると NTT 東西のフレッツ ADSL での加入者が 4,088,857 と初めて 400 万を越えた。他事業者経由の DSL 加入者が残りの 7,107,973。NTT 東西のフレッツ ADSL のシェアは 36.5% と前月から 0.1% のプラス。

なお、イー・アクセスでは同社がホールセールする ADSL サービスの加入者数が 4 月 8 日付で 150 万を突破したと発表している。

(4/12)

iVDR 規格に小型 HDD 採用「micro」とコンテンツ保護「Secure」を追加

モバイル機器やデジタル家電向けのリムーバブル HDD「iVDR」規格の策定を進める業界団体・iVDR コンソーシアムは、1 インチ HDD を使用した小型規格「iVDR micro」と、コンテンツ保護技術「iVDR-Secure」を新た

に採用したと発表した。

従来、iVDR には、パラレル ATA インターフェイスの「iVDR Parallel」、シリアル ATA の「iVDR」、1.8 インチ HDD を採用した「iVDR Mini」の 3 種類が用意されていたが、今回、1 インチ HDD を採用し、さらに小型化を図った「iVDR micro」が追加された。

「iVDR micro」は、現在暫定仕様の段階だが、外形寸法は 50×50×8mm(幅×奥行き×高さ)と、iVDR mini の 80×67×10mm から、さらに小型化されている。PDA やポータブルオーディオ、ビデオカメラなどの小型モバイル機器での採用を見込んでおり、900G 以上の耐衝撃性を実現する。インターフェイスはシリアル ATA で、コネクタ部の仕様は 26 ピンの iVDR オリジナル。

あわせて発表された「iVDR-Secure」は、iVDR 用の著作権保護機能で、デジタルコンテンツ配信などに利用される予定。iVDR-Secure では PKI (公開鍵基盤) を採用しており、iVDR メディアに公開鍵演算や共通鍵演算を行なう暗号エンジンや、利用制限つきコンテンツ鍵の記録・管理機能などの実装が必要となる。

iVDR-Secure では、コピー回数やムーブ回数などのコピー制御や、「24 時間」や「10 日間」といった利用期間制限などが、コンテンツ提供者の意向に沿って実現できる。PKI をベースにしているため、ネットワーク経由での認証などにも対応する。

暗号化のためのキーやライセンス、ライセンス転送ログなどは HDD 内の「TRM (Tamper Resistant Module)」と呼ばれる専用の領域に格納し、特殊なコマンド以外ではアクセス不能とする。コピー制御されたデータは暗号化され HDD の通常の領域に蓄積されるが、暗号化されたデータをパソコンなどから参照することはできない。

なお、iVDR-Secure はオプション扱いで必須項目ではないため、同日発表されたアイ・オー・データ機器の「USB2-iVDR/20」は iVDR-Secure 非対応となっている。

(4/12)

Microsoft、DRM 特許訴訟で InterTrust と 4 億 4,000 万ドルで和解

米 Microsoft と米 InterTrust は、両社間で争われていたデジタル著作権管理 (DRM) 技術の特許侵害訴訟が和解に達したと発表した。

この和解に従い、Microsoft は 4 億 4000 万ドルの一時金を InterTrust に支払い、特許技術のライセンスを取得する。また InterTrust は Microsoft の特許のもとで、DRM とセキュリティに関する参照技術仕様を設計および発行する権利を得る。

InterTrust は、2001 年に Microsoft の Media Player で使用されている DRM が同社の持つ特許を侵害しているとして、Microsoft に損害賠償を求める提訴を起こしていた。

今回の和解により、エンドユーザーは Microsoft 製品およびサービスの使用にあたって、InterTrust のライセンスを購入する必要はない。

また、Microsoft のプラットフォームを利用するソフトウェアの開発者も、通常および予想される範囲の用途においては InterTrust のライセンスを取得しなくてよい。ただし、Microsoft の技術と他社の技術を組み合わせた場合などは、システム・インテグレータを含む開発者は InterTrust からライセンスの取得を求められる可能性があるとしている。

InterTrust は、2003 年にソニーの米国法人 Sony Corporation of America、オランダの Royal Philips Electronics、Stephens Bank が所有するジョイント・ベンチャー Fidelio Acquisition に買収されている。

(4/12)

有線ブロード、光ファイバサービス契約者数、1 年間で約 14 万件増加

有線ブロードネットワークスは、ブロードバンド事業 (FTTH ブロードバンドインターネットサービス) について、2004 年 3 月末時点の進捗状況を発表した。

これによると、工事日が確定している契約者数が 230,904 件、回線が開通している取り付け数が 143,067 件となった。2003 年 3 月期の同サービス契約者数と比較して、1 年間で 143,990 件増加した。

前月 2004 年 2 月末時点のもの比べると、契約者数で約 10,500 件、取り付け数で約 7,500 件となる増加となっている。

なお今回より、これまで集合と分類されていたものが個人向け集合住宅、法人向けオフィス・商業ビルと 2 つに変更された。それぞれの数値は、集合住宅は 125,528 件、法人用途のオフィス・商業ビルが 8,972 件。

同様に、集合住宅における 1 棟あたりの平均加入戸数は 4.36 (集合住宅 5.34、法人用途のオフィス・商業ビル 1.21) 集合住宅取付棟数は 30,882 (集合住宅 23,483、法人用途のオフィス・商業ビル 7,399) となっている。

(4/9)

EMD Magazine 第 36 号

発行 2004 年 9 月 20 日

発行所 音楽配信関連情報サービス

責任編集 宮腰 温

レイアウト 株式会社アイビルダース